

留学体験レポート

国際学部 田中 克

1. はじめに

8月23日から12月8日までの約3か月半、セントラルミズーリ大学に留学しました。今回はその体験の中から、日常生活やイベント、サンクスギビングブレイクなど、主に授業外のことを紹介します。

2. 日常生活

残念ながら、今年は最初全員が日本人同士でルームメイトとなり、外国人と暮らした場合は別途手続きが必要でした。しかし、今まで実家暮らしだった私にとって、遠く離れた土地で家族以外の人と暮らすこと自体が新鮮でした。施設は日本と比べ全体的に綺麗とは言えませんでした。寮の住人たちはとてもフレンドリーで、初期のころの不安などはすぐに薄れていきました。特に、コミュニティーアドバイザーと呼ばれるフロアリーダーのような方たちが、様々な悩みや相談事を聞いてくれたり、楽しい企画を考えたりしてくれたので、とても居心地良く、安心して暮らすことが出来ました。食事は食堂で取っていましたが、あまりメニューに変化はなく、すぐに日本食が恋しくなりました。そのようなときはインスタントの日本食で凌いでいました。気候は基本的に湿度が低く、暑い時も寒い時も日本よりは快適に感じました。しかし日夜の寒暖差は日本より大きいので、体調管理には注意が必要です。

3. イベント

留学中は様々なイベントが開催されました。最初のイベントは大学のアメリカンフットボールの試合観戦でした。オープニングセレモニーで戦闘機のデモ飛行が行われるなど、大学の試合とは思えない規模で、最初のカルチャーショックでした。その他にはメジャーリーグの試合も見に行きました。授業の一環で地元の歴史的建造物を訪れることも多かったです。

4. サンクスギビングブレイク

何度か地元の家庭の夕飯にお邪魔させていただきました。家庭によっては子供と遊んだり、クリスマスに向けて飾りつけの手伝いやクッキーのデコレーションなども体験できました。またこの期間は旅行に行く生徒も多く、私も友人と一緒にセントルイスに行きました。観光スポット巡りや買い物を大いに楽しみましたが、抗議活動に巻き込まれたり、壁に銃痕があるような少し寂れたところを歩いてしまったりと、アメリカの抱える問題というものを図らずも体験することとなりました。

5. 終わりに

今回の留学を通して、語学だけでなく文化や社会問題など、実際に体感しなければ得られない知識も得ることが出来ました。アメリカ人や他の国の仲間もでき、自分とは違う考え方に触れることもできました。このような貴重な体験ができたのは先生方、学務課の方々、アメリカの先生方や友人たち、今回一緒に留学した仲間たち、そして両親のおかげです。この経験を今後も生かして前に進んで行きたいです。

